

「ニューロベイビーアンターネット」の画面。右側の文章を合成音声が読み上げるのに合わせ、左側のCGの赤ちゃんが表情豊かに動く



## 喜怒哀楽 波木で表現 CGで表現

喜怒哀  
喜怒哀  
喜怒哀  
喜怒哀  
喜怒哀

波木  
波木  
波木  
波木  
波木

## 支援ソフト開発

## 支援ソフト開発

学研ATR

# 電子メール

## 赤ちゃん 感情伝えます

電子メールだけでは伝え切れない気持ちをCG(コンピューター・グラフィックス)の赤ちゃんが顔や身ぶりで表現する。そんなユニークなメールソフト「ニューロベイビーアンターネット」を、関西学研都市のエイ・ティ・アール知能映像通信研究所(京都府相楽郡精華町光台)の土佐尚子客員研究員らのグループがこのほど開発した。土佐研究員らは、「電子メールのやりとりでは文章表現のささいな違いで誤解が生じやすいため、「文字とともに、映像で感情を的確に伝えよう」と、サポートソフトの開発に取り組んだ。

ソフトに用いた「ニュー

ロベイビー」は、土佐研究員が八年前、人の声の抑揚を認識する人工知能として開発したキャラクター。操

作手順では、ソフトに送信文を入力後、映像を加えた言葉を選択して、感情表現を入力するためのウイン

ドーを開く。

ウインドーは、喜怒哀樂など九種類の感情表現が座標軸上に設定されており、赤ちゃんの表情や身ぶりなどを、送り手の言葉に込めた気持ちに応じて変えられ

る。言葉とともに入力した

感情表現の映像は、個人用

のデータベースに保存され

る。メールの受け手が特定

されると、映像が自動で入力

され、合成音声が読み上げられる。また、サーバーに登録済みの日本語約三千語、英語約二千語のデータベースを

使い、コンピューターに感情表現の映像を自動で入力させることもできる。研究

グループでは今後、データ

ベースの登録語を増やすなど実用化に向けて改良し、一般に普及させる」と考

えている。  
と、幼児の声を模した合成音声がメールを読み上げ、文章の進行に合わせて、赤ちゃんが笑ったり、顔を真っ赤にしたり、飛び上がりたりして、送信者の気持ちを代弁する。

京都

13.3.08